

平成30年度 調布市立第三小学校 学校経営計画

学校教育目標 ◎情操の豊かな子ども（重点） ○自主的に学ぶ子ども ○明るく健康な子ども

目指す学校像(ビジョン)

- 児童にとって 満足感、達成感、安心感のある学校→自他の成長を互いに認め合い、一人一人の子どもの居場所がある学校
- 保護者・地域にとって 親しみと信頼のある学校→誠意ある対応をするとともに、情報を発信する学校
- 教職員にとって やりがいと充実感のある学校→切磋琢磨し、教職員・児童の伸びが実感できる学校

本校の現状と課題

- 11月16日の開校70周年記念式典に向けて、様々な事業への取組を通して学校の歴史や文化について学び、より一層学校や地域を愛する心を育成する。
- 児童は、何事にも前向きに取り組み学習規律もほぼ備わっている。知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等、資質・能力の3つの柱の育成を目指す。
- 児童は、明るく素直であいさつもよくできる。さらに規範意識の定着や自尊感情を高め、情操豊かな児童の育成に努める。
- 児童は、日常的に運動に親しんでいる。体力テストで課題となる握力、投力を強化し、さらなる体力向上を目指す。
- 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、「ライフワークバランス」を推進する。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	自ら学ぶ姿勢や習慣を身に付け、学ぶ楽しさを実感する子どもの育成	主体的、対話的で深い学びの視点で個々の子供に応じたきめ細かい教育の充実を図る。	○主体的、対話的で深い学びの視点で教科指導の充実を図り、資質・能力の3つの柱の育成を目指す。 ○授業改善推進プランに基づき、個に応じた指導と評価を行い、キャリア教育の充実につなげる。 ○家庭学習等で調布ベーシック・プランの下、ホームページに掲載した東京ベーシックドリルを活用し達成水準をクリアする。	○学校アンケートによる評価が、「学力」「家庭学習」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。 ○算数ノート1冊終了ごとに校長が賞状を授与する。
		世界で活躍できる人材の育成を図る。	○外国語を通して積極的にコミュニケーション能力を図ろうとする素地を養う。 ○外国語活動の年間指導計画を改善するとともに「Hi, friends」「Welcome to Tokyo」を積極的に活用した授業を展開し、定着と充実を図る。	○学校アンケートによる評価が、「外国語活動」の項目で、「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。
健全育成	特別支援教育の充実を図り、規範意識を高め、互いに認め合い、支え合う子どもの育成	自殺未然防止、いじめ未然防止及びいじめ解消100%の継続を目指す。	○「SOS」の出し方のDVDを視聴し、一人で抱え込まず相談して解決する方法を身に付け、自殺予防を図る。 ○「いじめ相談窓口」の職員を指名し、学校だよりやホームページで保護者に周知する。 ○「いじめ防止対策基本方針（改訂版）」の下に、全教職員で組織的な取組を行う。 ○SNS東京ルールを踏まえていじめは絶対にいけないことだという指導を徹底させる。 ○日常観察や帰りの会の発言に加えて年3回のふれあい月間のおりにアンケート調査を行う。さらにスクールカウンセラーによる5年生全員面接を行うことで、実態を把握していじめの未然防止、早期解消に努める。	○学校アンケートによる評価が、「人間関係」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目指す。
		社会的自立を促す教育を推進する。	○道徳教育推進教師を指名し、全体計画、年間指導計画、別様に基づき意図的・計画的な指導の推進を図る。 ○「特別な教科 道徳」を踏まえて、「考える道徳」「議論する道徳」の実施及び評価の工夫に取り組む。 ○人権教育の全体計画、年間指導計画に基づいた指導により、自分も他の人も大切に育てる。 ○教師の人権感覚を磨き、体罰、暴言は子供の人権侵害にあたることを自覚した上で指導にあたらせる。 ○東京都の「学校と家庭の連携推進事業」を受け、支援員、ｽｰﾊﾟｰﾊﾞｲﾀﾞｰの支援により細やかに対応する。 ○特別支援コーディネーターを中心に校内委員会を活用し組織的な指導や支援の充実を図る。 ○12月の「いのちと心の教育月間」に校長講話・授業公開・講演会を行い命の大切さの指導を徹底させる。	○学校アンケートによる評価が、「豊かな心」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目指す。
健康・体力づくり	健康についての正しい知識に基づき自分で自分の健康管理をする子どもの育成	健康で安全な生活を送るため、体幹の力を土台とする基礎体力の向上を図る。	○養護教諭と担任が協力してICTを活用した保健学習の展開を図る。 ○スポーツ庁委託事業「子供の体力課題対策プロジェクト」を受け、人・物を充実させ体力向上を目指す。 ○体力テストの結果を分析して指導し、児童が結果を受け止め、より伸びようとする意欲につなげる。 ○週に1回の「わくわくタイム」や火曜日の30分昼休みを活用し運動に親しみ運動の日常化へとつなげる。 ○「マラソン月間」「縄跳び月間」の際には走った距離、跳んだ回数をもとに記録証を授与する。	○学校アンケートによる評価が、「体力」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。 ○校長が記録証を全校児童に授与する。
		食に関する指導の全体計画・年間指導計画に基づき食育の推進を図る。	○アレルギー事故を起こさないためのシステムを確立し、全教職員・全児童が順守する。 ○食育全体指導計画、年間指導に基づき、担任と栄養士による食育の授業を実施する。 ○9月に給食試食会を設け、アレルギー対応を含めた食育指導を公開し、保護者の理解を図る。 ○保護者に食育に関心をもっていただけるように毎日の給食写真と一ロメモをホームページにアップする。	○学校アンケートによる評価が、「食育」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。
保護者・地域との連携	保護者・地域・関係諸機関との連携により生涯にわたって自尊感情を高め、自己実現を目指す子どもの育成	学校だよりやホームページ等を活用して情報発信に努め、学校教育の理解を図る。	○学校だより、校長だより、学年だより、学級だよりの充実を図り、児童の様子を家庭や地域に伝える。 ○学校便りの配付先を保護者、学校関係の団体責任者に加え、自治会での回覧を依頼し、広くお知らせする。 ○毎日ホームページをアップし、学校の教育活動の情報発信を行う。	○学校アンケートによる評価が、「情報提供」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目指す。
		保護者・地域との連携をさらに深め、社会に開かれた教育課程の編成及び開校70周年記念事業の成功を図る。	○70周年記念事業実行委員会を適宜開催し、意見交換を行い地域、保護者の連携をさらに深める。 ○「ちょうふ花園」で高齢者との交流を行う。地域の畑で農業体験を行い、収穫の喜びを実感する。 ○調布市防災教育の日に加えて、「第三小学校地区まちづくり協議会」と共催した防災訓練を10月に実施し、危機意識を培う。 ○交通安全運動期間中に「第三小学校地区まちづくり協議会」と保護者からも児童への指導をいただく。 ○PTA緑化サークルの協力を得て「花いっぱい運動」「花の子キャラバン隊」の推進を図る。 ○PTA・健全育成の協力を得て、「あいさつ運動」を実施し、進んで挨拶ができる子を育てる。 ○健全育成主催の「ソフトボール」「餅つき大会」「わいわい広場」等の行事参加を通して交流を図る。 ○学校アンケート、学校評議員会、学校関係者評価委員会の指摘を生かして社会に開かれた教育課程を編成する。	○学校アンケートによる評価が、「地域・保護者との連携」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。 ○地域行事に参加した児童を全校朝会で賞賛し参加意欲を高める。 ○教員も1年1回以上の参加を目指す。 ○学校アンケートによる評価が、「挨拶」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目標とする。
特色ある教育活動	オリンピック・パラリンピック教育推進校として、国際社会に生きぬく子供の育成	読書活動の充実、異学年交流を通して情操豊かな人間関係の育成を図る。	○1, 2年による生活科の交流活動、4, 5年の総合的な学習の時間「けやき」の時間を活用した共同学習等で、多くの異学年交流を図る。 ○「なかよしタイム」「なかよし広場」等縦割り班活動を通して異学年の交流を図り、望ましい人間関係を築く。 ○PTA図書サークルの協力を得て、休み時間や放課後等に「おはなし会」を開催し、情操豊かな児童を育成する。 ○週2回全学年で朝読書を実施する。その際、保護者やOBの方々による読み聞かせも計画的に行う。 ○6月と10月の読書旬間に教員の読み聞かせやお勧めの本紹介等により、読書の習慣化を目指す。	○学校アンケートによる評価が、「思いやりの心」の項目で「あてはまる」が90%以上を目指す。 ○縦割り班活動の年間12回以上の実施を目指す。 ○学校アンケートによる評価が、「読書の習慣化」の項目で「あてはまる」が90%以上を目指す。
		体育的・文化的な学習活動を通し、ラグビーワールドカップ2019、東京2020大会の気運を高める。	○「世界のお友達プロジェクト」を受けて、大使館との交流を図る。 ○オリンピック・パラリンピック読本の活用、各学年の発達段階に応じた体育的・文化的な行事を通してボランティアマインド、障害を理解する心、多様性を受け入れる資質の育成を図る。 ○10月9日に行われる調布市小学生ラグビー大会に向けてクラブ活動を中心に取り組む。	○学校アンケートによる評価が、「オリンピック・パラリンピック教育推進」の項目で「あてはまる」が90%以上となることを目指す。